

増補改訂版刊行にあたって

本書の初版は 2010 年に刊行され、2014 年で 4 年が経過した。この度、増補改訂版の刊行をおこなえるという望外の喜びに、まずは感謝の意を表したい。この 4 年間で、森林と本書を取り巻く情勢には大きな動きがあった。2011 年に国連が国際森林年を定めた。「持続可能な森林管理・利用」を啓蒙する目的で、国内外で様々な取り組みがなされた。この「持続可能な森林管理・利用」を考え理解するにあたり、私達に必要とされるのは一つの視点だけではなく、多角的な視点を統合した知見であろう。生態系サービスなどのキーワードを理解する上でも、本書にあるような実に多様な視点をより多く提供できればと思う。

本書は筑波大学で開講している総合科目「森林」の講義録を基に構成している。永年にわたりこの講義を取りまとめてきた中村徹教授が 2013 年春をもって定年退職した。今回の増補改訂版を刊行するにあたり、森林における至近で重要な問題提起としての「森林と地球温暖化（第 8 章の一部）」の話題と、「森林利用の持続可能性（第 11 章）」の話題を新たに加えることになった。さらに私達が暮らしている日本を含む東アジアの森林の特徴をまとめた章（第 2 章）も加えることにした。これらによって、森林を取り巻く最近の話題への議論の場を新たに提供できればと願っている。

2011 年の国際森林年の日本語の web page (<http://www.mori-zukuri.jp/iyf2011/>) で、「最後に森に行ったのは、いつですか？」というメッセージを目にした。本書の増補改訂版を手にとって読んで頂き、そして実際に森を歩いてみて、知と実際の森へ入る至近の機会になれば、本書の執筆者達にとって大変な喜びである。

2014 年夏

増補改訂版の執筆者を代表して 清野 達之